

西小は 大きな 家族

Family

～校長のたわいもない独り言・その2～

令和元年 12月2日(月) No.43

発行人

突然ですが、英語話せるようになりたい～の川崎先生。

♡ぶらっと校内を巡る♡

・**5年生が家庭科の授業だ。**教室にミシンを持ち込んで、リュックにもなる袋を作っていた。次々と作品を見せてくれる。驚いた驚いた(° o °)。みんなとても上手だ。売っているものと大差ない。これなら毎日使える。

・**ホールを通りかかると1年生が音楽発表会の練習中。**まあ、なんとかわいらしいことか。タヌキがポンポコ～♪。自然と笑みが。これは本番が楽しみだ。

・**図書館では4年生が読書。**なぜか女子に呼び止められ一緒に撮影。???。えっと、これ一体何なんですか？

・**6年教室では10年後の自分の模型作り。**へえ～。ビル建築や証券会社。ゲーマーやバスケット選手サッカー選手。天文学者に保母さん。釣り人、美容師、介護士・・・etc。みんな自分の将来をいろいろ考えているんだね。自分が6年生の頃って考えていたかなあ。

・**体育館では2年生がマット運動。**あぐらの状態からごろんと一回転。おもしろ～！と思って見ていると、男子が”これ見て！”と言って側転一発。お～っ(◎o◎)！完璧じゃないですか。上手上手、(^。^)/。

・**北風が冷たい校庭では3年生が一輪車の練習。**鉄棒につかまりながら少しずつバランスを取っている。中にはすでに会得してしまって、男子の手を引いている女子も(^^)。何とも微笑ましい。こうやって西小はみんな乗れるようになっていくんだね。

★★橿形山ですごいことが起きようとしている！！★★

今、橿形山が熱い！！。というのも、11月22～24日の三日間、伊奈ヶ湖周辺に日本中からマウンテンバイク乗りが集まり、アメリカから世界的に超有名な「マットハンター」という同じくマウンテンバイク乗りが来て、様々な取り組みが行われた。これはアジアでは初めての出来事として、新聞やテレビでも報道された。

もしも橿形山が日本のマウンテンバイクの聖地ということになっていくと、西地区全体に大きな変化もたらす。橿形山の山頂からふもとまでコースが出来るとしたら、世界的にも有数の高低差のコースとなる。そうすると日本だけでなく海外からも多くの人々がやってくる。その人たちが泊まる場所、食べる場所、自転車を整備する場所、一緒にやってくる家族や子どもが遊ぶ場所、そんな多くの新しい”もの”が必要となり、そのための施設が出来、多くの人でにぎわい、働く人も必要となる。地域の特産物が(野菜や果物)も必要となるだろうし、西地区の史跡遺跡にも人が来るだろう。もしかしたら移住してくる人も増えるかもしれない。そんな期待感がある。

少子高齢化の波が押し寄せている西地区にとって、今回の出来事は将来についての期待を抱かせるものであるし、もしかしたら大きな起爆剤になるのかもしれない。西地区が日本の「マウンテンバイクの聖地」になれば、これはもうとんでもなく素晴らしいことであるし、もう応援するしかない\ (◎o◎) / !